

IDDNewsletter..... 7

July
2026



専攻科棟三階情報デザイン科標本材料室

特集

校外学習における邂逅と学び

「邂逅（かいこう）」とは、思いがけない出会い、偶然の巡り合いを意味する。日常的な出会いではなく、運命的、ドラマチック、あるいは人生に大きな影響を与えるような素晴らしい出会いに対して使用することが多く、人物のみならず、芸術、思想、場所などとの出会いにも用いられる。

特集

校外学習における邂逅と学び

「邂逅（かいこう）」とは、思いがけない出会い、偶然の巡り合いを意味する。日常的な出会いではなく、運命的、ドラマチック、あるいは人生に大きな影響を与えるような素晴らしい出会いに対して使用することが多く、人物のみならず、芸術、思想、場所などとの出会いにも用いられる。

「邂逅」は今年度の高聳祭ディスプレイのテーマタイトルの候補の一つとして挙がった言葉です。様々な方向から考え検討した後、今年度は他のタイトルに決まりましたが、6月19日（金）に行われた校外学習が正に「邂逅」の名にふさわしい出来事でした。

公共の交通機関を駆使して、限られた時間内に札幌市視聴覚障がい者情報センター、北海道造形美術学院、北海道近代美術館の3カ所を見学することができました。例年であれば、2カ所が限界でしたが、施設間の物理的距離が比較的近く、徒歩で移動できた点が幸運でした。



高速バスに乗車しいざ札幌へ

最初に見学させていただいた視聴覚障がい者情報センターでは、センターの機能とその役割や成り立ち、今後自分達がどのように利用していくことができるのかなどを学びました。学校という守られた場所から就職して社会に出る2年生には、特に大切な内容です。主に説明を担当してくださった方が、本校卒業生ということもあり、お互いに親しみを感じつつ学びがある中にも楽しい時間となりました。



視聴覚障がい者情報センター：入り口

北海道造形美術学院は、美大・芸大を目指す受験生のための美術予備校です。昼間部、夜間部のほかに期講習、夏期講習、冬期講習、直前講習などがあり、本校の本科の生徒も過去にお世話になっています。

アトリエには、東京芸術大学、武蔵野美術大学、多摩美術大学などの合格者が入試問題を再現した作品が所狭しと展示されており、質の高い作品を目にすることができました。

日本の名だたる美術大学合格者の作品との出会い、アトリエで力を振るう同年代の学生達とその作品との出会い、そして講師の方々との出会いが本校の学生の刺激と学びに繋がりました。



北海道造形美術学院：入り口



札幌市社会福祉総合センター
1階ロビー

昼食は視聴覚障がい者情報センター隣にある、元気カフェふらっと様にて摂らせていただきました。ふらっとは多くの市民が訪れる公共施設等の空間を生かし、障がいのある方が接客等を通じてさまざまな方と交流するカフェです。カフェ業務に興味がある学生の質問に答えていただいたり、見学させていただいたり、食事以外でも大変親切に対応していただきました。

因みに、このたびの専攻科人気No.1メニューはハンバーグラッチです。学生達は食後に各自好みのスイーツやドリンクも楽しみ、大満足そうな様子でした。



北海道近代美術館【特別展】ポケモン×工芸展
—美とわざの大発見—

「ピカチュウの森」須藤玲子 氏

(ぶら下がっているレースは全て様々なピカチュウの形)

昼食後は北海道近代美術館に移動し、ポケモン×工芸展を堪能しました。ポケモンというテーマに、人間国宝から若手作家まで20名のアーティストが挑み、真剣に取り組んだ美とわざの結晶が90点以上も展示され、その見事さに学生達は食い入るように鑑賞していました。

おそらくは、子どもの頃から慣れ親しんできた『ポケモン』ですが、今回は違った目線で捉えることができたことでしょう。



「ミュウツー」
吉田泰一郎 氏

(高さ約 2m、約 80 種類・2 万個を超える金属パーツを組み上げ、銀メッキや七宝を施してある)

このたびの校外学習では、教育活動に協力して下さる方々との邂逅、素晴らしい作品との邂逅がありました。事後学習として、学生達はレポートを提出します。一体どのようなものを学生達の心に残すことができたのか、レポートを読むのが楽しみです。

改めて、今回多方面において関わってくださった機関、施設、人々に感謝を申し上げます。

IDDN

Contents

特集

校外学習における邂逅と学び

「邂逅（かいこう）」とは、思いがけなく出会い、偶然の巡り合いを意味する。
日常的な出会いではなく、運命的、ドラマチック、あるいは人生に大きな影響を与えるような素晴らしい出会いに対して使用することが多く、人物のみならず、芸術、思想、場所などとの出会いにも用いられる。

表紙写真：専攻科棟三階情報デザイン科標本材料室

Welcome to Information Design Department !!

入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科は、聴覚障害のある方で、高等学校や、特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食を利用でき^(注1)、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます^(注2)。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科 Web ページ内の「入学者募集」をご覧ください。

専攻科情報デザイン科 Web ページ

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228

入学者募集について

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223

入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

注1：1食400円（昼食）で、就学奨励日の対象となっています。注2：学年末・学年始休業日、夏学・冬学休業日は開舎します。注3：現在、材料費等は徴収しておりません。授業毎に使用する教材等は全て学生自費でじんびし学校に持参していただきます。注4：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、通学や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注5：普通校には通常ない領域で、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服に焦点を当てます。具体的には、弊校の通学、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係る内容となり、学校の教育活動全般を通して行われます。注6：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障害者の実際の社会での有り様においては、日本語を母語とする「聾者」と聞こえづらいけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分けられます。

情報デザイン科学科だより
Information Design Department

IDDNewsletter

July 2026 7

IDDNewsletter July 2026

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒047-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。



Copyright 2000/2015 Kozue MORIAI/Hokkaido high school for the Deaf

専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。（いわゆる「準ずる教育」の教育課程です）
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト^(注3)で、対費用効果の高い学習内容を学ぶことができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象^(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。（例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンテックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！）
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」^(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね（「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等）に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い^(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって) 価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に選択できるようにしていきます。